



芝生やガラス窓が美しいエスコンフィールドの球場

深化するアリーナ 周辺と一体で 魅力競う

「一度は見ておいた方がいいよ」と言われたのが、北海道北広島市の北海道ボールパークFビレッジ。昨年活躍したプロ野球・北海道日本ハムファイターズの本拠地「エスコンフィールド」を擁する。実際に見学すると、明るくオシャレで、プレーにぐっと引き込まれるような感覚になるほど球場が近く感じられる。周辺の施設も充実し、野球がない日も楽しめるのが特徴だ。

一方、神戸市のウォーターフロントにも現在、「ジューライオンアリーナ神戸」が建設中で、バスケットボール男子のBリーグ2部（B2）「神戸ストークス」の本拠地になる予定。いずれも、周辺施設と一体となってまちとして発展を遂げようとしている。今、深化するアリーナを紹介する。

（神戸新聞社東京支社編集部長 小西博美）

巨大なビレッジが出現 野球がない日も楽しめる

JR新千歳空港駅から電車で約20分、JR北広島駅からバスに揺られて5分ほど走ったところに「まち」と言うにふさわしい巨大な施設が現れた。「北海道ボールパークFビレッジ」。敷地は32ヘクタール、メイン施設のエスコンフィールドは5ヘクタールの広さがある。北海道日本ハムファイターズの本拠地だ。

Fビレッジは「野球がある日もな



Fビレッジ・エスコンフィールドの入り口



大きなガラス窓が特徴となっている球場

い日も365日、24時間楽しめる」

をモットーに2023年3月にオープン。エスコンフィールドには球場のほかフィールドを一望できるホテルや天然温泉、レストランもある。

球場は日本初の開閉式屋根を持つ天然芝の球場で、明るく美しい。片側は特徴的なガラス窓となっており、日中は光が入ってくる。

周囲には散歩できる「水辺&ピクニックガーデン」や、テントがなくともキャンプができるグランピング施設、自然を生かした空中アスレチックが体験できるアドベンチャー

パークなど多くの施設が集まる。こ

こに住みたい人のためには新築分譲マンションがあり、ライブラリーやコワーキングスペース、認定こども園なども充実しているという。

ファイターズは昨年、エース伊藤大海投手や「未完の利器」と呼ばれる清宮幸太郎選手らの活躍でパ・リーグ2位に。2勝1敗でファイナルステージ進出を決めたが、最後は福岡ソフトバンクホークスに敗れた。

ボールパークFビレッジの24年の入場者数は418万7046人。2位でクライマックスシリーズに進出し、エスコンで試合を開催するなどファイターズが強かったことが後押ししたようだ。オープン1年目（3

（12月）は346万4637人で、約72万上回った。「オールスターの開催地となり、日韓OBの野球大会も開くなど多くの方に来てもらった」とファイターズスポーツ&エンターテインメント広報PR室長のトランティ美蘭さんは話す。

選手と同じ目線で 特製の監督のイス

さて、私たちがエスコンを訪ねた



ベンチの両サイドに配置されている新庄剛志監督のイス

時期は残念ながら、シーズンオフで野球の試合は開催されていないかった。それでも、グラウンドの選手と同じ目線に立てると、スタジアムツアーに参加。ツアーは試合がないからこそ体験できるともいえる。制服を着たファイターズガールが案内してくれた。

ベーシックツアーでは、最高級の「ダイヤモンドクラブシート」やインタビュエリアなどを見学した後、グラウンドに降り立った。天然芝は青く美しく、グラウンドは明るい。ダグアウト（ベンチ内）にも実際に入ることができる。驚いたのは、新庄剛志監督の特別席。左右どちらからでも采配を振るえるように



ダルビッシュ有投手と大谷翔平選手を大きく描いたウォールアート

と、ダグアウトの前左右に用意されている。こういった設備も選手の活躍を支えているのかもしれない。恐れ多いこの席に座らせてもらい、しばし監督の気分に入る。

さて、エスコンフィールドの象徴的な建物が「TOWER II」だという。レフトスタンドにある5階建てのビルで、天然温泉とサウナ、ホテルなどがあり、試合のある日には温泉やホテルの部屋から観戦するなど、ぜいたくな時間を過ごすことができ



日本ハムファイターズの活躍の歴史を紹介するコーナー



日韓ドリームプレーヤーズゲームの開催記念モニュメント



グッズや土産物を販売するショップ



最高級のプレミアムシートエリア

る。中は見学コースには含まれていないが、この名の由来となったのが、ともにかつて日ハムに所属し、世界に羽ばたいた米大リーグ、サン

ディエゴ・パドレスのダルビッシュ有投手と、ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手。2人ともファイトイズ時代には背番号11を付けていたことから敬意を表して命名したと

いう。

その2人のプレーする姿を大きく描いた壁画がTOWER IIのコンコースにある。壁画アート集団「OVER ALLS」が手がけた。縦5・5メートル、横7メートルの大きさで、通る人の目を引く。撮影スポットとしても人気で常に多くの人でにぎわっている。また、ツアーで

野球場からまちへ 28年にはJR新駅も

は、24年に球団創設50周年を迎えたことを記念し、50年の歴史をつないだレジェンド監督と選手15人を描いたウォールアートや、昨年7月に開かれた「日韓ドリームプレーヤーズゲーム」を記念したモニュメントも見るができる。

エンターテインメント性にあふれたエスコンだが、Fビレッジ全体について言えばまだ完成度は30%というから驚きだ。トラン ティさんは、スペインの著名な彫刻家ガウディが造り続けている巨大な教会にたとえ「Fビレッジはサグラダファミリアのようで、完成がいつになるのか分からない」と笑う。確かにエスコンはほぼできあがっているというが、広大な敷地にはまだまだ余裕がある。今後、商業施設が完成するほか、27年には大手グループのホテルができ、28年には新駅が完成予定だ。すると、駅と施設とを結ぶ歩行者専用道路や商業施設も必要になる。隣町

からは、大学が移転。オフィス棟の他、シニア向け住居やメディカルモールなどの建設も構想中だ。トラティさんは「ゆりかごから墓場までと言うが、生まれて大学へ行き、勤めて歳月を経るといふ風に、ここで一生を過ごすことも夢ではない」という。ますます発展する「Fビレッジ」から目が離せない。

神戸港にアリーナ誕生 都市機能が集積する地に

さて、兵庫に目を転じれば、神戸でも今、着々とアリーナの建設が進む。神戸港の新港第2突堤に黒くシックな巨大アリーナが見える。4月にオープン予定の「ジーライオンアリーナ神戸」(神戸市中央区新港町)だ。バスケットボール男子「神戸スートクス」の本拠地となるほか、コンサートや国際会議にも活用する予定だ。

神戸・三宮から南へ徒歩約20分のウォーターフロントにあり、7階建て延べ床面積3万2300平方メートル。入場者数年間100万人、周辺と合わせ年間300万人の集客を見込む。アリーナの運営会社「On

e Bright KOBÉ (ワンブライトコウベ)」の渋谷順社長がアリーナ建設を模索していたところ、港周辺を活性化させ、にぎわいを創出しようとしていた神戸市や財界の思惑と一致。この場所での建設が決まった。



神戸港に建設中のジーライオンアリーナ神戸

神戸港は1886年の開港以来、世界中からモノや人、文化が往来し、異国情緒漂う街として発展してきた。阪神・淡路大震災による被害の影響で、貿易港としての役割が低下した時期もあったが、一方で観光資源としてのウォーターフロント開発も進んだ。

発も進んだ。

神戸ポートタワーや神戸海洋博物館があるメリケンパークと、商業施設が充実するハーバーランドのほか、現在、注目を集めるのが、ニューシーポート(新港町)と呼ばれるエリア。倉庫など歴史的な建造物があつたところに、温泉施設や都市型アクアリウム「アトア」が同居する複合施設「神戸ポートミュージアム」がオープン。ジーライオンアリーナ神戸もこの地域に整備される。

アリーナを運営するワンブライト社の親会社で、IT企業のスマートバリュー(大阪



ジーライオンアリーナ神戸の運営会社ワンブライトコウベの渋谷順社長

市)の社長でもある渋谷さんは、22年に神戸市と連携協定を結んだ。集積したデータを市の政策に役立ててもらうためだ。民間11社と神戸市によるマーケティング活動も始めている、アリーナ利用者の交通手段や飲食、買い物などの行動をデータで分析。回遊性を高め、消費行動を促す方策などを考えるという。

「アリーナ単体でやってもまちは発展しない。データを使って周辺の商業施設や商店街などと連携しながらいかに需要を喚起するかが大事になる」と渋谷社長。「地域の人口が100万人を切るような厳しい時代になっても、アイデンティティを失わず都市間競争に勝てるモデルをつくりたい。アジアでナンバーワンになりたいですね」と夢は大きい。